

北広島市長期総合計画審議会 第2回 産業・都市部会 議事録

■日 時 平成21年8月26日(水) 19:30~20:30

■会 場 芸術文化ホール活動室1

■出席委員

伊藤寛部会長、麻生昌裕委員、穴田廣光委員、遠藤智恵子委員、大木克夫委員、
小池隆史委員、鈴木康照委員、藤野伸之委員、森國聡委員、吉田俊一委員

■欠席委員

なし

■事務局

高橋企画財政部長、木下信司総合計画課長

■傍聴 1人

開 会

【事務局】この専門部会は、9月中に2回行う予定である。日程は、9月4日(金)と9月24日(または25日)を考えている。その後、10月6日に全体会議を開催し、部会で話し合った結果の報告を予定している。また、10月28日にもう一度全体会議を予定している。

1 部会長あいさつ

【部会長】産業・都市部会の分野は、以前は花形であったと思う。でも、これからの時代では、市民から見るとお金のかかる提案が増えているということで、皆さん肩の荷が重いとは思う。しかし、先ほど会長が述べていた3つのこと「緩やかながらも着実に成長していく」「交流やふれあいによる活性化」「子供や若者にとって希望の持てる」というのは、産業・都市分野に大きく関わってくると思う。そういう意味では、大変でありながら責任の重い部会である。皆さんから様々な意見をいただき、画期的なアイデアを出していきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

2 専門部会の役割について

【事務局】総合計画の内容は、資料の略図にあるように、基本構想と基本計画がある。基本構想は「都市像」、「基本目標」、「政策」で構成されており、基本計画には「政策」、「施策」がある。部会の役割は、A3の体系図(次期総合計画 基本構想・基本計画施策体系図)のとおりである。「活力ある産業のまち」という基本目標に対

して6つの政策があり、6つの政策の下にそれぞれの施策がある。たとえば農林業の施策は、農地の利用・保全、担い手の育成、生産・流通の振興、都市住民との交流の4つである。枠組みとしてこういうものがあると事務局では考えている。

産業・都市部会では、基本目標として「活力ある産業のまち」と「快適な生活環境のまち」の2つがあり、この2つに政策がそれぞれ6つ及び8つある。その下にはこれらの施策があり、これがこの部会の担当する範囲となる。これから議論を進める中で、施策の分類方法についても意見を聞いていきたい。

【部会長】 先ほどの全体会議を含め、何か意見があれば出していただきたい。

3 部会審議

【委員】 北広島の特徴として、5地区に市街地が分かれているというのがある。庁舎建設の話だが、北広島団地の人口は17,000人、大曲地区も17,000人くらいだと思う。北広島団地は少しずつ減り、大曲地区は増えてきている。10年先を考えると、おそらく東部地区と北広島団地を合わせた人口は大曲地区と同じくらいになるだろう。本庁舎は今の場所で建て替えるとしても、分庁舎は大曲地区にあってもよいと思う。工業団地の中でも外でもいいが、企業としては大曲にあったほうが、業者も非常に助かる。2つあれば北広島の特徴に合っており、西地区に対するサービスもスムーズにできるはずだ。

もう一つは、東地区と西地区に分かれている真ん中の道都大学、その裏の国有地、レクの森も含めたもの、これは北広島市全体で考えた場合、中央に位置している。中央に森があるのは良いことだと思う。しかし、この森は原始林で、雰囲気はかなり怖く、入りにくい。まちの周辺にあるのは普通だが、中央にあるのはまちの発展に大きな問題があるのではないか。国有地であるという規制は確かにあるが、市民全体の憩いの場が作れば、同じ森でも本当の意味での憩いの場ができる。当然10年、20年はかかるだろうが、それでも、憩いの場をつくった方がよいと思う。お金をかけるのではなく、ボランティアや高齢者の元気な方々を集め、なんとか原始林を憩いの森にはできないものか。

【委員】 行政サービスという視点で考えると、庁舎に関する話題は「教育・文化部会」で検討することになると思う。我々の部会で意見が出たということの後で伝えてもらい、検討してもらえればと思う。

【委員】 公園や緑地は環境の部会に入っている。検討の余地があるならば、国有地を市がどこまで関与できるかわからないが、検討してもらいたい。

【委員】 特区の申請を出せば森林公園は造れるかもしれない。

【委員】 地理的に真ん中に国有地があるので、市民の森があれば、北広島市内のどこからでも近い。レクの森は北広島高校の方にしか駐車場はない。出入口は1箇所のみでしょう。

【委員】 サイクリングロードから入れる。自転車道から右に降りると入り口がある。

【部会長】 ほかに何かあれば。

【委員】 着実に成長するということを考えると、2つの視点からみる必要がある。1つは産業振興であり、もう1つは住宅環境。体系図にある「快適な生活環境のまち」とか「人と文化を育むまち」「環境と共生するまち」など本当によいまちづくりができれば、人口が減り続けるのではなく、流入人口が増加する。そんな成長性をどこかの部会で描いていかないといけない。2つの緩やかな成長により、人口を増やしていくことを大事にしていけばよいと思う。具体的には、北広島市は、東京の中心部よりも、子育ての環境水準は低い。東京では働きながら託児所に一歳から預けることができる。雇用面でも、若者が就業する機会がない。優秀な高校生は札幌に行ってしまう。もっと教育水準を高め、最高の高校をつくりあげて地元の大学を目指す、という教育のあり方も方向性としては良いのではないか。また、市外で働いてお金を持ってきてくれる若者は、これから北広島を活気づけてくれる。若者にとっては、ここに住宅を建て、子育てを行い、教育も心配なく、安心して働くことができる都市ができればよい。高齢者にとっては、ネットワークができるような都市ができあがればよいと思う。プラスに働くような具体的なものが施策に反映できないか。

【委員】 東京との比較は難しいが、たとえば、東京には新宿御苑や皇居など森があちこちにあり、十分活かされている。その回りに人口が集まっている。北広島は住宅が多い。今の場所で市役所を建てるならば、このまちはあまり発展しない。あちこちからバスで来て帰る、交通の不便な場所だと考えなければいけない。市役所の回りには人が集まってくる。北広島駅周辺は本当に寂しい。駅の西口のバス・タクシー空間の変な造りは納得できない。北広島を活かすには駅事業が大事である。歩いていけばそばに市役所があることや、その他どこにでもいけるというような一つの形をこの中心に作ればよいのではないか。北広島市には五つの地区がある。これらの循環を活かして、これらの地区が相互に循環するように市役所を中心に持ってくるというのはどうか。

【委員】 大曲地区は高速道路のインターチェンジがあり、そこに入ってくる産業と切っても切り離せない関係にある。また、西の里は札幌のもみじ台と一緒にあったま

ちである。資源としてのJRの活用が中心部として全くできていない。個々の中心部がJRとともに流入、流出する人口の動き等とともに、何か核になっていくものを生み出すことができれば、北広島は独自に発展する可能性がある。駅を活用するのは重要だと思う。

【委員】 独断の考えだが、駅にある市民サービスコーナーはいらない。かわりに、駅の近くに福祉施設をつくるなどしてはどうかと思う。駅の近くにあれば電車で行き帰りできる。

【委員】 東京では、車より電車が早い。しかし、北海道は車の方が早く、便利だ。そのため車最優先の発展をしてきた。北海道では駅を中心にしたまちづくりを進めたが、全くうまくいかず、無理矢理あの場所に住宅街を作った。今は車社会に流れている。だからこそ駅周辺は人口が減り、他が増えてきていると思う。

【委員】 大曲から駅までは9キロあり、バスで300円くらいかかる。やはり車の方が安く、早い。そのあたりも整備すべきである。レクの森にはスズメバチがいて、国有林だから手をいれることができないということはあるが、整備しなければいけないところだ。このことは、前から言っているが、整備は一向に進んでいない。

【委員】 逆に言えば、その資源を使って札幌市民を流入させるとすれば、意外に違ったものができる。どちらにしても札幌とは切っても切れない地理的な関係がある。

【委員】 北広島は地理的な関係などで一番集まりやすい地域なので、やはりそういう抱え込みの方法を考えなければいけない。

【委員】 学校をそのまま庁舎にしてはどうか。みんな懐かしく思うはず。意見の中に、変わらなくても、発展しなくてもよいのではという意見も多く、重く受け止めている。今あるものを活用し、収入が多くななくても何か見えてくると思う。無理な産業発展、土地利用の必要のないまちでもあると思う。

【委員】 ゆったりとした、安心できるまちである。人々は今、おしりに火がついて生活している。もっと特徴のあるまちをつくってあげればよいと思う。

【委員】 極端な話、モノレールをつくとよい。そこまで言うと市の財政がアウトになるが、5地区をうまく連携させてあげればよいと思う。たとえば、野球大会をするなどの交流をしてあげればいいのだが、野球をする場所がない。

【委員】 先ほど駅のことを聞いていたが、上野幌駅はどのように考えているのか。北

広島市民も上野幌駅をかなり利用している。以前、駅周辺にショッピングセンターを建てるという計画を聞いたが、大曲からみると、上野幌駅は交通の便がよく利用しやすい。

【事務局】 最近では、民間企業がショッピングセンターをつくるという話があった。そのポテンシャルに着目し民間企業が行うことになれば、市が側面で手伝いをする。今後 10 年のことは決まっていない。

【委員】 造成の話は進んでいるか。

【事務局】 造成は進んでいない。開発には許可が必要な場所である。

【委員】 市街化調整区域であり、規制が多く、結構縛られているはずである。

【事務局】 現在、市街化調整区域を市街化区域にするには、相当の困難があると思う。

【委員】 農家レストランなど個々の農業経営体を発展させるために、規制を緩和することは難しいのか。

【事務局】 法律的に言えば、市街化調整区域のままで可能な手法もある。通常はその手法を考えるとと思う。市街化区域に編入することは大変な労力を必要とする。

【委員】 消費者は、農業には違う価値を感じている。たとえば、観光農園はすごく活気がある。そのような状況の中で、農業をプラスにするような流動策をとることができれば、北広島の農業は札幌と隣接している地域なので、活気に溢れると思う。

【委員】 現在、農協の加盟者数は約 500 戸、専業農家は約 200 戸だと思う。

【事務局】 市内の農家戸数は平成 17 年で 197 戸、農業従事者数は 382 人で、兼業農家が多い。

【委員】 グリーンツーリズムを実際やっているのは 1 箇所、東の里、防災センターの横だけ。

【部会長】 市民農園はどのくらいあるのか。

【事務局】 市民農園の数については、手元に資料がない。

【部会長】 レストランをしている農家はあるか。

【委員】 北広島にはいない。需要がない。農家が食べていけない。

【部会長】 人口推計の結果をみると高齢者が増加する。10年後、高齢者はまだまだ元気である。市民農園を積極的に借りることが、ここに住みたいという意志につながることもあるはずだ。

【委員】 貸す方が大変かもしれない。農地に関する法的規制は厳しいため、家庭菜園が大半である。何らかの形できちんと行うのならば、農業委員会での許可が必要になる。特区にするなど、もっと参入しやすくする必要がある。南幌はそういう方式をとっているはずだ。長沼は水田の真ん中に自動車整備工場を造った。馬追の国道には、整備工場、レストランもある。都市に近い北広島は有利である。農振法できちんと線が引かれているのでそこから外れるのは大変である。

大曲の住宅団地は民間開発によるものであり、下水や水道がないところもあった。砂利道の両脇に自由に家を建てていき、一時間問題になった。そういう背景から、市街化区域の線引きをした経緯がある。道営北広島団地が人口増加の起爆剤になった歴史もある。今あるものを充実、活かしていったほうがよいと思う。商工会には約700社が加入しており、全市では1,000社を越える企業があるが、活気なし、働き場所もなしという状況になっている。活気のある状態にもっていくには施策が必要である。大曲の工業団地もそうだが、大きなショッピングモール「インタービレッジ」などが出てきて、地元商業は一気に衰退していった。ずっとその繰り返し。新しいことに疲れたのだと思う。

【委員】 アウトレットモールの建設に際しては、地権者が多くて苦勞したらしい。札幌が本社の大手企業が人口の流れをはかって大型商店の立地を決めている。

【委員】 交通手段の面からみると、コミュニティ交通はどこでも衰退しており、赤字は確実である。既存のタクシー会社、バス会社を充実させたほうがよい。双方向の循環が必要であり、一方だけの循環では利用率が上がらないと思う。北広島駅から西の里や大曲に行くのに1時間以上バスに乗らないといけない。それよりも車を利用するほうが効率的だ。他の市町村もこれで失敗している。この先の交通手段、道路整備は必要性を十分に考えなければいけない。

【委員】 共栄の工業団地には26社程度の企業が立地している。社員の送迎用バスが4台あるが、朝晩の2回しか走らない。一般の人が利用できるように連盟から市にかなり陳情は出したが、乗降客の見通しが立たない限り、民間のバス会社は運営してくれない。

【委員】 石狩市では、朝晩は食品工場の社員を送迎、日中は一般の人も乗せている。一般客を乗せる事業化はどうしたのかというと、石狩市が国に申請し実用化した。帯広市はバイオマスのバスをもっている。一般の車で走るよりも公共で乗り合わせると、どれだけのCO₂削減、環境にプラスになるかということでモデル事業が実施できる。帯広市の例のように、国の事業にのって、バス4台を普段は行政サービスとして行っていればよいのではないか。

【委員】 共同運行4社が集まってやったが、微妙に送迎をやっている地域が違う。始業終業時間帯も違う。それでうまくまとまらない。

【委員】 私の会社は13年目くらいで、一番上もまだ30歳代までしかいない。会社では、将来社員の年収を、年代別年収ベースで打ち出し、どの年収であれば、石狩市のどの辺に住まいをもつことができ、その住まいの関係の中で教育や子育てがどのように行えるのかを、会社として整理している。

【委員】 石狩の工業団地でも、自分たちの敷地の20%くらいは従業員の駐車場で、生産性がない。

【部会長】 人口の推計は、何もしていないでいるとこうなるという結果なのか。

【事務局】 必ずしもそうとは言えない。

【委員】 自然に、変化させないでいったらこうなってしまうということではないか。産業の目から意見を述べると、全ての問題の根元はやはり人口減少である。北広島の人口減少を防ごうかと思う。緩やかな成長という問題があるが、それを果たそうとするとやはり企業誘致、産業を作らなければだめではないか。そうしないと若年の労働力はなかなか増えない。企業誘致すれば増えるということで、新しい工業団地の造成については首を長くして待っている。人口が増えれば交通問題も解決するし、歓楽街の問題も住環境の問題も解決する。産業の立場上どうしても優先させたい。これからもそういう目線で意見を言わせていただきたい。

【事務局】 人口推計は、必ずしもこれから何もしなければという前提での話ではない。なぜかというと5年ごとの国調の結果を使って推計しており、平成17年データが一番新しいものだが、それまでの間、北広島の人口はどんどん伸びてきた。その時代の傾向を使っているので、何もしていないでただ減るだけの推計にはなっていない。

【部会長】 新しい施策をどんどんやっていかなければ、日本全体がこうなるだろう。

日本全体の傾向である。

【委員】 会社周辺は住宅地である。大曲は人口が極端に増えるまではいかないと思う。

【委員】 インタービレッジでは、札幌の美しが丘から清田近くまでの購買力をみているので、それで混んでいるのだと思う。実際に札幌からの購買力がやってくる。

【委員】 清田区、豊平区の人口まで売上に入れて考えるそう。自分の店の大きさに依存し、大手になればなるほど購買力が遠隔地から流入できる。大曲の商店街には何もない。東地区からも向こうへ流れる。車で 10 分もかからず行ける。団地で暮らしていると運転できない高齢者が困る。それを埋める意味でもコンビニが入ってきている。何でも買えるのでとても助かっている。

【部会長】 次回は整理して意見を聞きたいと思う。成長していくという部分と、右肩下がりになりつつある社会において、どこまでが市民の経済的な負担で可能なのかというあたりについて、各委員で少し考えてきてほしいと思う。

【事務局】 部会の会議録は、事務局で調整したものを部会長に見てもらい、それで了解をもらってから作成する。分野の施策など細かい点がわからないという話だが、確かにそのとおりだと思う。9月4日に事務局から分野別の政策・施策について、たたき台を見せたいと思っている。そちらをまず見ていただき、できるだけ効率的な方法で、委員の皆様の意見を反映していきたいと事務局では考えている。

【委員】 施策ごとの費用とそれによって生じる効果のような定量指標が出せるならば出してほしいと思う。かかる費用も目標値がなければ評価が難しい。政党のマニフェストのような見せ方でもいいかもしれない。人口増によるプラス効果はどのくらいかなど示すことはできないか。

【事務局】 施策ごとに金額のプラスマイナスを計算することは無理である。会計のシステムがそういう仕組みになっていない。それは理解してほしい。現在の北広島市でのお金の使われ方は、内容を見せることができる。最低限必要なものを言ってもらえれば、工夫することはできるかもしれない。

【委員】 どんなに討論したところで、絵に描いた餅になるのではないか。

【事務局】 そうは思わない。

【委員】 総合計画の全体にわたる部分については、予算がどうこう言っている、話

しがまとまらないのではないか。予算のことばかり考えていては、発想が非常にせまくなってしまう。

【委員】 こういうことは、最終的に議会と合意するものなのか。

【事務局】 基本構想、つまり総合計画の根幹のところは、議会の議決事項となっている。総合計画審議会からの答申をもとに、市が案を作成し、議会に提案する。

【部会長】 答申の出し方としてはいろんな手法があると思う。最終的な計画書には載らなくても、審議会の意見として入れることもできると思う。次回は来週だが、また議論のほうをよろしくお願いしたい。

4 次回専門部会の日程

次回の日時は9月4日金曜日、開始時間は午後6時から。場所は芸術文化ホールで了承された。

閉 会